



第5回 がん三次元培養研究会

後援：国立がん研究センター研究所・金沢大学がん進展制御研究所

[会期] 令和6年2月28日（水）

[会場] 国立がん研究センター・新研究棟 1F
大会議室・セミナー室

組織委員長：関根 圭輔（国立がん研究センター研究所）
岡本 康司（帝京大学 先端総合研究機構）

*The 5th Research Conference
of
Research Society for Cancer 3D Culture*

February 28 (Wed), 2024

Chair: Keisuke Sekine, Ph.D.

Koji Okamoto, M.D., Ph.D.

National Cancer Center Research Institute

Teikyo University, Advanced Comprehensive Research Organization

ご挨拶

第5回がん三次元培養研究会開催にあたりまして

このたび、「がん三次元培養研究会」を代表致しまして、第5回がん三次元培養研究会にご参加頂けますことを深く歓迎申し上げます。

近年の医学研究の進歩により、がん細胞を標的とした様々な化合物、抗体医薬、核酸医薬等が、次世代抗がん剤の候補として次々と見つかってきております。これらの実臨床での有効性を調べる前に、がん細胞株、実験動物等を用いた前臨床での詳細な検証が必要とされます。しかしながら、がん細胞株を用いた従来の方法論では実臨床との相関が十分でない事が多く、またがん細胞のマウス移植を用いた検証では、莫大な時間と費用がかかる事が問題となりえます。従って、がん撲滅に向けた研究を飛躍させるためには、抗がん剤の奏功性検証に向けたより有効な実験プラットフォームの確立が重要と言えるでしょう。

近年、臨床検体由来のがん組織を摘出し、オルガノイド、スフェロイド形成法や、CTOS法等により、がん三次元培養を行う方法論が開発されてきました。これらの培養条件下では、がん細胞が本来有する多様性、幹細胞性や分化能のような特性を保ったまま、継代維持する事が可能です。これらの培養法を用いる事により、実臨床により近い状態で、より簡便に抗がん剤奏功性の検証を行う事が可能になると期待されます。従って、これらの研究を推進する事により、がんの成因の理解を目指した基礎研究の促進とともに、新規抗がん剤の前臨床段階での検証に役立つ事が期待されます。

このような背景のもと、本研究会は、基礎研究と臨床研究の研究者が集い、三次元培養法をさらに深化拡張させる事でがん研究の新たな研究基盤の確立に寄与する事を目指し、平成29年に発足いたしました。皆様のご意見を頂戴しながら、自由闊達な意見交換の出来る場として活用して頂ける研究会にしていきたいと考えております。前回の本研究会においては、コロナ下で難しい時節にもかかわらず200名近くの方にご参加頂き、この領域に対する期待度の高さを感じました。そこで第5回研究会として、「**がん三次元培養と先端技術の融合がもたらす新たな臨床への展開 —内分泌がんと消化器がんを中心に—**」をテーマとして、令和6年2月28日にがん三次元培養研究会を開催致します。今回のご講演では、培養法にとどまらず、三次元的な解析方法やiPS細胞を用いた先端技術など幅広い先生方に御講演お願い致しました。様々な分野のアカデミア研究者のみならず、その応用、事業化等を視野に入れた企業の方々のご参加も歓迎いたしますので、宜しくお願い致します。

令和6年1月 吉日

国立がん研究センター研究所
関根 圭輔

帝京大学 先端総合研究機構
岡本 康司

【第5回がん三次元培養研究会 概要】

会 期：令和6年2月28日（水）13:10～17:40

会 場：国立がん研究センター
新研究棟1階 大会議室・セミナー室

後 援：国立がん研究センター研究所・金沢大学がん進展制御研究所

組織委員長：関根 圭輔（国立がん研究センター研究所 独立ユニット長）
岡本 康司（帝京大学先端総合研究機構 教授）

組織委員会：後藤 典子（金沢大学がん進展制御研究所 教授）
井上 聡（東京都健康長寿医療センター 研究部長）
堀江 公仁子（埼玉医科大学ゲノム応用医学 教授）
池田 和博（埼玉医科大学ゲノム応用医学 准教授）
田中 知明（千葉大学病院大学院医学研究院 教授）
加藤 友康（国立がん研究センター中央病院婦人腫瘍科 前科長）
川上 理（埼玉医科大学総合医療センター泌尿器科 教授）

事務局：〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1
国立研究開発法人 国立がん研究センター研究所
がん細胞システム研究ユニット
代表 関根 圭輔
担当 住吉 絃央子

（連絡先）TEL：03-3547-5201（内線：3458）

FAX：03-3542-8170

Email：hisumiyo@ncc.go.jp; kesekine@ncc.go.jp

研究会 HP:

https://square.umin.ac.jp/cancer3dculture/5th_meeting.html

【会場案内】

会 場： 国立研究開発法人国立がん研究センター
新研究棟1階 大会議室・セミナー室

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

電話：03-3542-2511 内線 2493 (研究所事務)

内線 3858 (研究会事務)

国立がん研究センター地図



アクセス：

- 都営地下鉄 大江戸線 築地市場駅A3番出口から徒歩1分
構内に入りましたら、首都高速沿いの通路を進んで地図中の右角を曲がりますと、新研究棟入り口があります。
- 東京メトロ 日比谷線・都営地下鉄 浅草線 東銀座駅6番出口から徒歩5分
- 東京メトロ 日比谷線 築地駅2番出口から徒歩5分
- 東京メトロ 有楽町線 新富町駅4番出口から徒歩10分

第5回 がん三次元培養研究会
「がん三次元培養と先端技術の融合がもたらす新たな臨床への展開」

プログラム

受付開始(12:20) 国立がん研究センター・新研究棟 1F

開会の辞(13:10) 間野 博行 (国立がん研究センター研究所・研究所長)

研究会趣旨(13:15) 関根 主輔 (組織委員長、国立がん研究センター研究所)

セッション1 内分泌依存性がん 13:20-14:20

座長：加藤 聖子(九州大学 医学部)

大日方 大亮 (日本大学 医学部)

「去勢抵抗性前立腺がん患者由来モデルの確立とその応用」

池田 和博 (埼玉医科大学 医学部)

「女性がん三次元培養系による新規治療標的と転移治療モデルの開発」

竹内 康人 (金沢大学 がん進展制御研究所)

「GCSF を介した乳がん幹細胞とがん関連線維芽細胞(CAF)との相互作用は、乳がんの骨転移に関与する」

休憩

セッション2 オルガノイドを用いた新展開 14:30-15:30

座長：井上 正宏 (京都大学 医学研究科)

洲崎 悦生 (順天堂大学 大学院医学研究科)

「がん組織3次元解析技術の最先端とその応用」

後藤 慎平 (京都大学 iPS細胞研究所)

「iPS細胞を利用した呼吸器オルガノイドの疾患モデル」

筆宝 義隆 (千葉県がんセンター 研究所)

「胆管がんにおける *de novo* 遺伝子産物 NCYM の治療標的化」

企業からのご紹介

15:30-15:50

ポスターセッション (セミナー室)

15:50-16:30

セッション3 微小環境とがん多様性への展開

16:30-17:30

座長：関根 圭輔 (国立がん研究センター 研究所)

武田 はるな (国立がん研究センター 研究所)

「慢性炎症を伴う大腸がん形成の分子機構解明」

伊東 史子 (東京薬科大学 生命科学部)

「腫瘍転移過程における TGF- β シグナルの内皮細胞の作用」

岡本 康司 (帝京大学 先端総合研究機構)

「がん三次元培養及び移植腫瘍を基盤としたがん組織多様性・治療抵抗性の解析」

閉会の辞 (17:30) 中釜 斉 (国立がん研究センター・理事長)
